

【プレスリリース】

— art space Kimura ASK?企画展のお知らせ —

世界の揺らぎを知覚する、 音楽に共振する絵画の今

2022.5.9(Mon)—5.21(Sat)

関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度、art space Kimura ASK?では、『世界の揺らぎを知覚する、音楽に共振する絵画の今』展を、5月9日（月）から5月21日（土）の会期で開催致します。

本展は、美術評論家／音楽評論家である倉林靖の著書『音楽と絵画』の刊行を契機に、この本に共鳴したアートディレクター仲世古佳伸と倉林靖の、共同企画による展覧会です。

[企画概要]

倉林 靖の著書に『音楽と絵画』（上下巻 芸術現代社 2019 年）という本があります。美術評論家であり、音楽評論家でもある倉林は、この本のなかで「ずっと音楽と美術が、並行して自分の関心事であり続けている」と述べています。この著書を通じて、彼は西洋の芸術史を概観し、バロックから近代、20世紀へと繋がる「音楽と絵画」の2つの芸術を、スリリングに絡み合わせることで、その関係性の内に、自己の「思考と感性」の在り処を探ろうとしてきました。

本企画は、倉林 靖の批評の視線を基軸に、世界を揺るがすコロナ禍と、分断と、大戦を煽る不安な時代にあって、音楽と共振する現代の絵画を対比させることで、改めて「音楽と絵画」の、今日的な関係と実存を問うことをテーマにした、倉林 靖と仲世古佳伸の共同企画による絵画展です。

〈 倉林 靖 ステートメント 〉

色彩の「ハーモニー」、形態の「リズム」など、絵画のありさまを音楽の用語で表現することは、ごくふつうに行われる。また楽器の「音色」や管弦楽の「色彩感」など、音楽を視覚的な表現に置き換えることも、またしかり、である。音楽（ヴァイオリン演奏）もプロ並みにこなした画家クレーは、造形思考に関する著作のなかで、造形表現を音楽とのアナロジーでとらえる努力を、ひたすら行なっている。音楽と絵画は、もともと、強い親和性をもって私たちに迫ってくるのだ。

今日、音楽に関してもヴィジュアル表現に関しても、ネット環境でこんなにも気軽に接することができ、生活のなかに完全に溶け込ませている今、そして、ミュージックビデオやYouTube等、音楽と画像を一緒に感じるのがこんなに当たり前になっている今、音楽とヴィジュアルのハイブリッドに関する私たちの感性は、さらに研ぎ澄まされ続けている、といえる。

こうした感覚・感性の進展のありようを、現代の絵画にも、見てとることができるのではあるまいか。そこには、音楽的なものへの共振にことよせて、季節の移り変わり、ひとの心の変化といった、世界の微かな変化に反応しようとする、微妙で繊細な感性を見いだすことができるだろう。それは、私たちの今後の社会とメディアの行く末を、そして、人間という生物の生き方の未来を測るバロメーター、地震計のようなものになるかもしれない。このような意味で今日の絵画は、注目に値するのだ。

[展覧会概要]

本展は、「音楽と絵画」をテーマにした4人の画家による絵画展です。

何層にも表面を重層化させながら、自己の感覚に応答する清新な抽象画を探求する、渋谷和良。目に見えない対象や、花や光が自在に往来する幻想的な絵画を描く、寺門孝之。絵画の基本的要素である、色・形・空間についての考察をテーマに絵画の可能性を探る、今井俊介。自然との触れ合いから得たインスピレーションを、生命観あふれる色彩による“理想の心象風景”へと昇華させる、佐藤舞梨萌。

4人の画家の描く多様な絵画のハーモニーは、それぞれの音色を奏で、共振し合いながら、ギャラリーの空間をスリリングに交感していきます。

- 展覧会タイトル：『世界の揺らぎを知覚する、音楽に共振する絵画の今』
- 会期：2022年5月9日（月）～5月21日（土）※日曜休廊
11:30～19:00 ※最終日17:00まで
※オープニングレセプションは開催致しません。
※ご来廊に際して新型コロナウイルス感染予防にご協力をお願い致します。

- 会場 : art space Kimura ASK?
東京都中央区京橋3-6-5 木邑ビル2F
Tel. 03-5524-0771 / asku@oak.ocn.ne.jp

アクセス : 東京メトロ銀座線「京橋駅」2番出口より徒歩1分
都営浅草線「宝町駅」4番出口より徒歩1分

<http://www.kb-net.com/ask>

- 企画 : 倉林靖 / 仲世古佳伸
- 企画協力 : art space Kimura ASK?
- 参加アーティスト : 今井俊介 / 佐藤舞梨萌 / 渋谷和良 / 寺門孝之
- テキスト : 倉林靖
- 協力 : コバヤシ画廊 / HAGIWARA PROJECTS / CCII 株式会社

〈 お問い合わせ先 〉

Tel. 03-5524-0771 (art space Kimura ASK?)

Email. asku@oak.ocn.ne.jp プレス担当 : 木邑 (きむら)

[企画者 プロフィール]

倉林 靖

美術評論家/音楽評論家、リコーダー奏者

1960年群馬県生まれ。青山学院大学文学部史学科卒業。1986年、美術出版社主催「芸術評論」募集で第一席入選。以後、現代アートを主な領域として評論活動を展開する。美術評論家連盟会員。主な著書に「意味とイメージ」（青弓社、1990）、「新版・岡本太郎と横尾忠則」（ブックエンド、2011）、「音楽と絵画」（上下巻 芸術現代社 2019）等

仲世古佳伸

アートディレクター

1955年三重県生まれ。1980年大阪芸術大学芸術計画学科卒業。展覧会のキュレーション・構成を中心に、多面的な表現活動を展開する。主な展覧会に「TARO LOVE展—岡本太郎と14人の遺伝子」（西武渋谷店、2011）、「数寄景/NEW VIEW—日本を継ぐ、現代アートのいま」（阪急うめだギャラリー、2019/日本橋三越本店他、2020）等

[アーティスト プロフィール]

今井俊介 IMAI Shunsuke

1978年福井県生まれ。2004年武蔵野美術大学大学院修了。
主な展覧会に、2021年「2つの時代の平面・絵画表現—泉茂と6名の現代作家展」(Yoshimi Arts、大阪)、2019年「MOTコレクション ただいま / はじめまして」(東京都現代美術館、東京)、2019年「Reborn—未来と発明 コレクション X 現代作家」(福井県立美術館、福井)、2018年「絵画の現在」(府中市美術館、東京)、2017年個展「float」(HAGIWARA PROJECTS、東京)、2014年「絵画の在りか」(東京オペラシティ・アートギャラリー、東京)などがある。

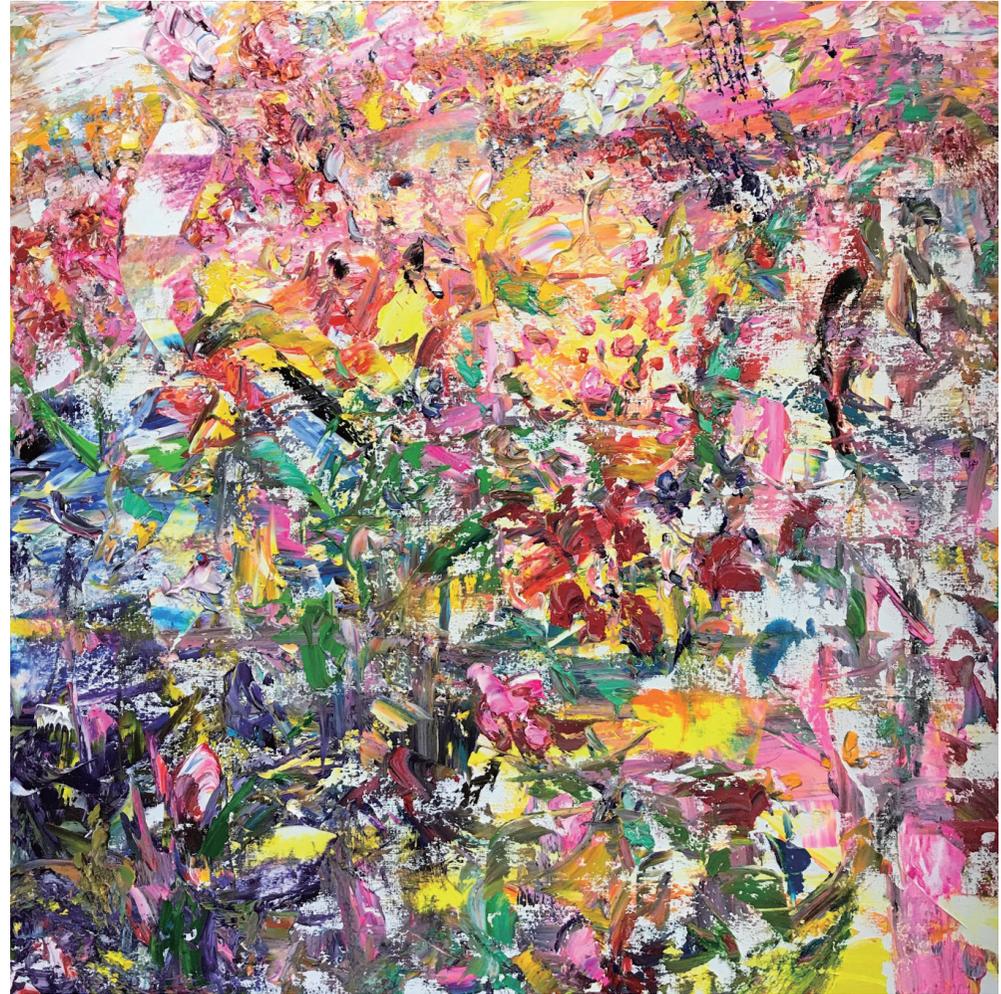


「untitled」

2021
キャンバスにアクリル
32×40cm
(C) IMAI Shunsuke

佐藤舞梨萌 SATOU Marimo

愛知県生まれ。2005年講談社フェーマススクールズ卒業。
主な展覧会に、2022年「Artis 常設展」(Gallery Artis、東京)、
2021年「花、あたらし」[キュレーター：仲世古佳伸](art space
Kimura ASK?)、2020年個展「Sense of Wonder」(art
space Kimura ASK?、東京)、2019年「昇華のモルフォロ
ジー— 佐藤舞梨萌 / 山口真和」[キュレーター：西村智弘]
(KOMAGOME1-14cas、東京)、2017年個展「BLOOM」
(art space Kimura ASK?、東京)、2016年「花ドルチェ
問い / 」[キュレーター：仲世古佳伸](Gallery MARUHI、
東京) などがある。



「蝶の旅立ち」

2021
キャンバスに油彩
90×90cm
(C) SATOU Marimo

渋谷和良 SIBUYA Kazuyoshi

1958年東京生まれ。1983年東京芸術大学美術研究科版画専攻修士課程修了。1981年東京芸術大学美術学部油画科卒業。2002年から1年間、文化庁在外派遣研修員としてドイツベルリン芸術大学、アールブルグ大学にて研修。主な展覧会に、2021年「渋谷和良展」(コバヤシ画廊、東京)、2014年「CONSTELLATION2014 星座的布置」(上野の森美術館、東京)、2013年「雲をつかむ作家たち」(青梅市美術館、東京)、2011年「存在を超えて」(青梅市美術館、東京)などがある。2009年には、インドアートサミット(ニューデリー、インド)に参加。現在、明星大学デザイン学部教授。



「Ena」
2022
キャンバスに油彩
116.0×116.0cm
(C) SHIBUYA Kazuyoshi

寺門孝之 TERAKADO Takayuki

1961年愛知県生まれ。1983年大阪大学文学部美学科卒業。1985年セツ・モードセミナーにて長沢節氏に絵を学ぶ。1985年「第6回 日本グラフィック展」大賞受賞。東京・神戸を拠点に、独自の天使画をはじめ、書籍装画、広告ポスター、ライブペインティング、絵本など幅広く活動。主な展覧会に、2020年、作詞家松本隆とのコラボレーション展「風街ヘブン」(神戸市立相楽園旧小寺家廬舎、兵庫)、2020年「天国：寺門孝之展」(西脇市岡之山美術館、兵庫)などがある。2015年受胎告知画における天使表現の研究で博士号取得(芸術工学)。



「音楽を聴きながらーショスタコーヴィッチ交響曲10番」

2016

リトアニア・リネンにアクリル+ミクスとメディア

45.5x27.3cm

(C) TERAKADO Takayuki